



進化した抜歯ツール ラクスエーター・プラス

新タイプの追加で、さらに使いやすくなりました。

歯科医師が日々の診療において、ストレスのかかる診療の一つに抜歯が挙げられる。特に歯冠部の崩壊した残根歯の抜歯には最も注意が必要である。その歯牙の多くは軟化牙質が多く存在し、ヘーベルの挿入とともに歯牙の崩壊が進み抜歯を更に困難にする。経験の浅い歯科医師にとっては、容易に難抜歯の症例に移行してしまう可能性がある。また抜歯時間の長時間化は患者の苦痛も伴い、また信頼度も低下する恐れがある。更に術後の治療の遅延やドライソケットになる確率も高くなる。

(医)輝有会 仙崎歯科医院
フィールデンタルクリニック
(大阪府貝塚市・大阪市)



理事長 仙崎 昭憲

ラクスエーター進化型登場

これらのことを解消できるのがラクスエーター／ラクスエーター・2でしたが、更に器具の種類が増えラクスエーター・プラスとなりましたので紹介させていただきます。

ラクスエーター・プラスの特長

- 1) 無理のない抜歯ができる。
- 2) 骨損傷が最小限の歯周靭帯切断ができる。
- 3) インプラントのための良好な骨組織の保全が可能になる。
抜歯窩の損傷が最小限である。
- 4) 術後の痛みと腫れの経過が良好である。
- 5) 力に頼らずに抜歯が可能である。

極細タイプ

今までより更に細いブレードのもので1Sと呼ばれる、刃の幅が僅か1mmのタイプが追加され、大白歯の残根にも容易に挿入でき、抜歯がスムーズに行えます(写真1)。

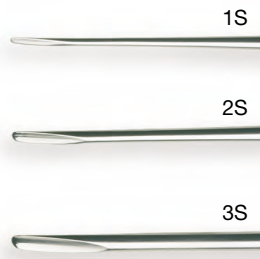


写真1 先端の比較写真

ショートタイプ

更に4モデルに今までと形状が同じでシャフトの短い物が追加されました(S2S、S3C、S3S、S3CA)。これまでのものより約10mm短く固定しやすくなり、また手の小

さな女性歯科医でも無理なく操作できると思います(写真2)。

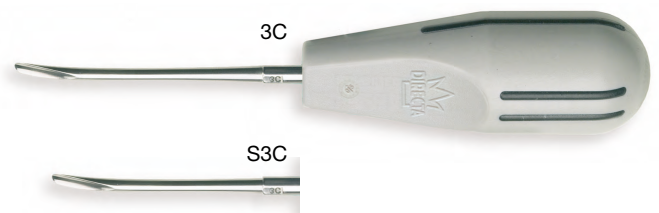


写真2 ショートタイプと通常タイプの比較写真

デュアルエッジタイプ

今迄はおそろくなかったであろう形状の物が追加販売されました。DE3とDE5でこの2つは刃部先端幅が細い2段刃形状になっています(写真3)。先の細い部分により

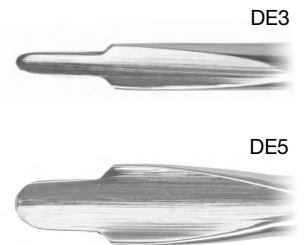


写真3 デュアルエッジの先端写真

空隙への挿入が容易で徐々に靭帯を切断し、幅の広い部分まで入ったときには楔効果による歯牙の脱臼と抜歯ができます。挿入が安定し、今までは途中で器具の交換が必要だったケースでも、これのみで抜歯ができるようになりました。右ページの一連の写真はデュアルエッジタイプを使用した抜歯の臨床例です(写真4~19)。

ラインナップも増え、ますます有効になったラクスエーター・プラスですが、その使用における注意点を挙げておきます。



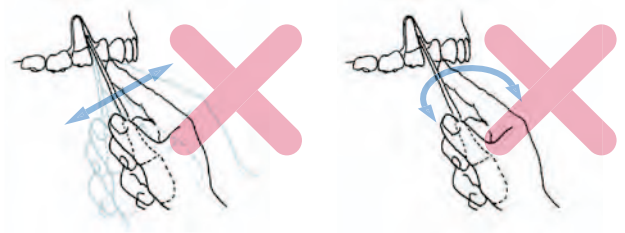
注意事項

- 1) 刃部は常にシャープに保つ必要があります。(セットに付属しているシャープニングツールによってこまめに研ぐことで最良の結果が得られます。)
- 2) 歯牙の長軸方向に沿ってまっすぐに挿入していきます。そうすることで歯牙の脱臼および抜歯が行えます。

1. 歯牙長軸方向に対して真直ぐに挿入します。
2. 歯牙に沿わせて歯槽骨を圧迫しながら歯周靭帯を切り進めていきます。
3. 根長の3分の2程度切断していくと楔効果により歯牙を脱臼できます。



- 3) 決してヘーベルのようにこじり、捻る操作をしてはいけません。特に刃部の薄い番号の物では破折につながります。あくまで挿入するという感覚で操作してください。これによる先端の破折はメーカー保障の対象にならないので、特に気を付けてください。



最後に、ラクスエーター・プラスになって、オートクレーブに加えケミクレーブによる滅菌も可能になったことを付け加えておきます。

ラクスエーター・プラスの詳細は、12ページをご覧ください。

抜歯の臨床例 4-19

